

図5 神戸市の土砂災害ハザードマップ [6].
赤い破線は図4中に示す山腹傾斜断面図の位置を示している。

3. 仙台における地形地盤環境

それでは、仙台市とその周辺地域においても広島や神戸のような土砂災害は発生するのであろうか。かねてより宅地造成地の留意点については奥津春生 [8] による指摘があり、それに引き続いて1978年宮城県沖地震では図6に示すように大規模な宅地造成地の崩壊（崖崩れ）も発生している [9]。ここで云う宅地造成地とは、自然地形の斜面や起伏を人工的に改変して住宅建設などの敷地を合理的に確保しようとするもので、仙台市においては図7に模式図を示すような、太白区緑ヶ丘地区のひな壇型造成地と青葉区折立地区の切盛り造成地が代表例ではないかと思われる。それらは豪雨災害の事例ではないが、地震動によって被害が発生する宅地造成地は、豪雨災害に対しても脆弱性を有しているものと考えられる。

3.1 太白区緑ヶ丘地区の地盤災害

太白区緑ヶ丘地区は、1978年宮城県沖地震の際にひな壇型造成地の一部が崩壊を起こして注

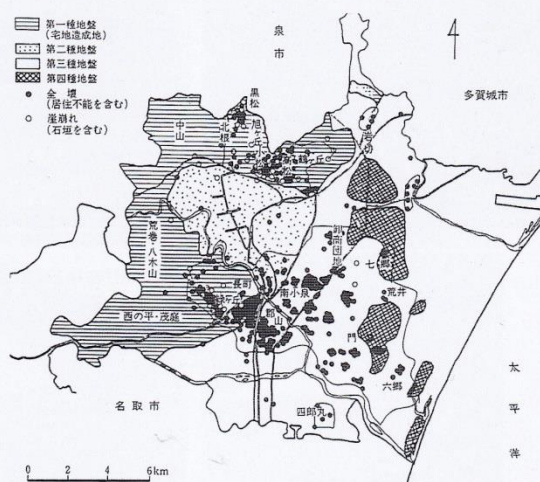


図6 仙台地域の地盤条件と1978年宮城県沖地震の地震被害分布 [8], [9]